

令和6年度看護師職能委員Ⅱ交流会を開催しました

皆様には、日頃より看護師職能委員会Ⅱ活動にご支援ご協力を賜り、深く感謝申し上げます。

今年度の看護師職能委員Ⅱ交流会は、8月31日（土）に県内5支部6名の委員、本部の担当常務理事、職能委員6名の計13名の参加のもと、昨年度に引き続き対面で開催いたしました。

「病院・施設・在宅までの連携～よりよいACPのために～」をテーマに、病院、訪問看護ステーション、特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、介護療養院に勤務する看護職それぞれの立場で経験や思いを語り合いました。地域の中で医療と生活の場をつなぐ看護職は、地域の多職種と連携し「看護の専門性」を発揮し、生活を支えての視点で見て考えることが必要になります。

在宅に移行するタイミングで最期をどう過ごすか医師より説明し同意の用紙を記入しているが、その用紙の活用方法が定まっていないため、急変時搬送する際に手元にないことがあり救急隊員にDNARであることが伝わらない、ACPについて説明しているスタッフが看護職とは限らず延命治療についての説明と内容が不十分になってしまう等の問題点や病状に応じて多職種で話し合いの機会を設け情報共有を行っている、看取り搬送として救急車で病院へ搬送して死亡確認できるシステムがある地域の話、人材育成に関連して、訪問看護師のラダーを作成してほしいなど活発な意見交換が行われました。患者様、利用者様の療養の場が変わっても希望に沿った医療が提供されるように連携が必要であると改めて感じました。日々、利用者や家族の思いや在宅での生活を考え、悩み、試行錯誤しながら、対応している様子が伺えました。昨年度より交流会の時間が少なくまだまだ話し足りない様子もみられました。このような意見交換の場を設けていけたらと思いました。

看護師不足の厳しい職場環境の中、高齢化社会を支える職能として、利用者や家族の思いに耳を傾け、知恵や工夫を活かしていきましょう。

